

# 令和2年度（2020年度）第1回北海道総合保健医療協議会 地域医療専門委員会在宅医療小委員会（R2.6.1書面開催）の意見について

資料1

## 1 報告事項 R2年度（2020年度）北海道在宅医療推進支援センター事業の実施について

参考意見	回答
事業実施に賛成。薬剤師会においても薬剤師向けに「人生会議」普及に向けた研修会開催について検討中であることから、本研修と連携していきたい。	貴会の取組について情報共有しながら進めさせていただきます。
このセンターの事業がこれから、10年の在宅医療普及の基盤になると強く期待している。強く推進してい頂けたらと考える。	—
在宅医療の採算性について調査したり、採算が取れるモデルケースがあればお教えて欲しい。	今後、保健所、都市医師会などへ在宅医療に関する課題等のヒアリングを実施する予定であることから、それらを踏まえた情報収集を実施してまいります。
A C P 普及研修については、施設内看取りの充実を図るため対象を施設職員（特に介護職員）にも拡充すべき。	人生会議（A C P）普及研修については、今年度は、医療従事者等向けと住民向けの開催を予定しているところです。住民向けは人生会議（A C P）の基本的な事項を伝達する研修会とすることから、施設職員の方も参加いただきたい。

## 2 協議事項 北海道医療計画（在宅医療提供部分）の中間見直しの考え方・スケジュール（全委員 同意）

参考意見	回答
特に小児在宅医療の提供体制については、検討していくことは賛成。小児在宅の場合、小児用として使用できる薬品数は限られていることから、多くは薬局で錠剤を粉砕するなどの加工を行っており、入院医療から在宅へと切れ目なく適切に移行するためには、退院時における情報共有など地域における医療機関と薬局の連携が特に重要となってくると考える。	今後の施策の検討の参考とさせていただきます。
新型コロナウイルス感染拡大によりオンライン診療を含めたライフスタイルや社会情勢の変化の影響を考慮して進めていく必要を感じる。	道では、患者情報の共有を図る医療機関相互のネットワークの構築や地域の医療機関と都市部の専門機関から助言を受けるTVカンファレンスシステム等の遠隔医療システムの導入など、ICTを活用した取組に対する支援を行っており、今後も社会情勢を踏まえつつ、ICTも活用するなどして在宅医療提供体制の構築に努めてまいります。